

千葉氏 まち歩きマップ

千葉氏の本拠地

千葉市の歴史は千葉氏存在を抜きに語ることはできません。千葉氏は平安時代の終わり頃から千葉を本拠として、東国を代表する武士団として中世を通じて活躍しました。

現在、政令指定都市として97万人を超える大都市となりましたが、その源流は室町時代の半ばまで、この地を治めた千葉氏にあります。

当時の千葉の様子を伝えるものとして『千学集抜粹』の次の文章がよく知られています。

大治元年丙午六月朔日、はじめて千葉を立つ、凡一万六千軒也、表八千軒、裏八千軒、小路表裏五百八拾餘小路也、曾場鷹大明神より御達報稲荷の宮の御前まで七里の間御宿也、曾場鷹より広小路・谷都田まで、国中の諸侍の屋敷也、是八池内、鎬木殿の堀の内有、御宿八御一門也、宿の東八円城寺一門家風おはしまし、宿の西は原一門家風おはしまし、橋より向御達報までは宿人屋敷也、これによって河向を市場と申なり、千葉の守護神八曾場鷹大明神、堀内牛頭天皇、結城の神明、御達報の稲荷大明神、千葉寺の龍蔵権現是なり、弓箭神と申は妙見八幡・摩利支天大菩薩是也

※大治元年は1126年

ここに表現された内容は室町時代の頃と思われませんが、千葉氏の本拠が曾場鷹神社から御達報稲荷の範囲であったと推定されます。やや誇張もあると思われませんが、都市として賑わいを見せていたようです。都川の南には今も地名として残る「市場」が都市の消費を支え、都川河口の湊は交通や交易の窓口となっていました。

千葉氏がここに館を構えていた時代、千葉は房総の政治・経済および文化的な中心地として繁栄していました。



中世千葉町推定図
(梁瀬 2003 『千葉いまむかし No.13』)



脚力自慢の
オプションコース
7 七天王塚
8 千葉寺
9 寒川神社

千葉常胤生誕九百年記念

4 亥鼻公園周辺

ここには戦国時代に築かれたとされる猪鼻城跡があります。古くからお花見の名所として知られ、千葉開府 800 年記念碑など多くの記念碑が建てられています。

園内での発掘調査の結果、空堀からは五輪塔が、土塁からは蔵骨器などが発見されました。これらの出土品の一部は郷土博物館で展示されています。

台地の北端には、かつて湧水があり、お茶の水と呼ばれていました。この水で常胤が頼朝にお茶を入れてもてなしたと伝えられています。

智光院

馬加康胤の援助によって、室町時代に建立されたといわれる真言宗豊山派のお寺で、不動明王をおまつりしています。千葉家代々の祈願所として守られてきました。

胤重寺

戦国時代に常胤の孫孫石胤重を供養するため、雲巖上人が開いた浄土宗のお寺で、阿弥陀如来をおまつりしています。境内に「塩地蔵さま」と呼ばれるいぼとり地蔵があり、塩を用いてなでるとイボがとれるとされています。

高德寺

南北朝時代に千葉氏胤か、その孫の原胤高が建立した曹洞宗のお寺と伝えられています。本尊は地蔵菩薩で、境内にある閻魔堂には閻魔様がまつられています。

東禅寺

鎌倉時代末に千葉貞胤が援助し、円中規公師が開いた曹洞宗のお寺。目の病気にご利益のある薬師如来をおまつりしています。

5 君待橋之碑周辺

石橋山で敗れ、安房国へ逃れてきた頼朝を常胤が一族郎党と、君待橋のたもとで迎えたといわれています。当時の橋は、すでに失われていますが、北東へ200mほどのところへ同名の橋が新たに架けられています。

この橋にまつわる二つの和歌が知られています。一つは頼朝に橋の名をたずねられて常胤の六男胤頼が詠んだ歌、もう一つは陸奥国へ下る藤原実方が里人に橋の名を聞いて詠んだ歌です。



君待橋之碑

見えかくれ
八重の潮路を待つ橋や
渡りも敢へず
帰る舟人

千葉胤頼

寒川や
袖師が浦に立つ煙
君を待つ橋
身にそしらるる

藤原実方

6 白幡神社

頼朝が稲荷神社のある丘の上に源氏の象徴である白旗を立て、その一旒を神前に捧げて源氏の興隆を祈願しました。以後、白幡（旗）大明神と呼ばれるようになりましたが、明治に入って白幡神社と社名が改められました。

7 七天王塚

千葉大学医学部周辺に点在する七つの塚で、疫病や災害除けの神様である牛頭天王がまつられています。七という数が北斗七星にちなんだ妙見菩薩への信仰をあらわしたものとする説や平将門の七人の影武者の墓だったという説など、様々な言い伝えが残されていますが、詳しいことはわかりません。

8 千葉寺

和銅2年(709)に行基が開山したと伝えられる千葉県最古の寺院。常胤が再興し、千葉氏が代々深く崇敬していました。境内には県指定天然記念物の大銀杏や、天正10年(1582)銘の空山上人の五輪塔などがあります。



海上山千葉寺

9 寒川神社周辺

寒川の若衆が、都川河口の妙見洲（現在の出洲港）と呼ばれる浅瀬で神輿を担いだまま海に入り、禊を行う「御浜下り」は、千葉神社の祭礼として行われていましたが、戦後になって、寒川神社の例祭として毎年8月20日に行われるようになりました。

豊漁を祈り、舟形の山車も出るなど壮大な祭礼が行われていたと伝えられています。

千葉市立郷土博物館
Chiba City Folk Museum



千葉市立郷土博物館



お茶の水

千葉市都市アテナイナテテナイナ推進課
千葉市中央区千葉港1-1
電話：043-245-5660
2018年5月

千葉氏 まち歩きマップ

1 千葉神社周辺

千葉神社

千葉常重が大治元年（1126）に大椎城から猪鼻城へ居城を移したとき、先祖代々の守護神である妙見尊をこの地へ運び、妙見社を建立したのが起こりとされています。千葉常胤の案内で同寺を参拝した頼朝からも手厚く保護を受けたとされています。

北斗山金剛授寺尊光院という寺院でしたが、江戸時代には妙見寺とも呼ばれていました。明治時代の神仏分離令により、北辰妙見尊星王（天之御中主大神）をおまつりする千葉神社となりました。

毎年8月に行われる妙見大祭は「だらだら祭り」とも呼ばれ、長い伝統を有するお祭として今なお市民に親しまれています。



妙見大祭の御神輿

通町公園（大日寺跡）

ここには大日寺がありました。千葉大空襲で被災し、戦後、稲毛区轟町に移転しました。大日寺の境内には千葉氏累代の墓碑と伝えられる16基の五輪塔群があり、鎌倉時代末から室町時代の貴重な石造物として知られています。

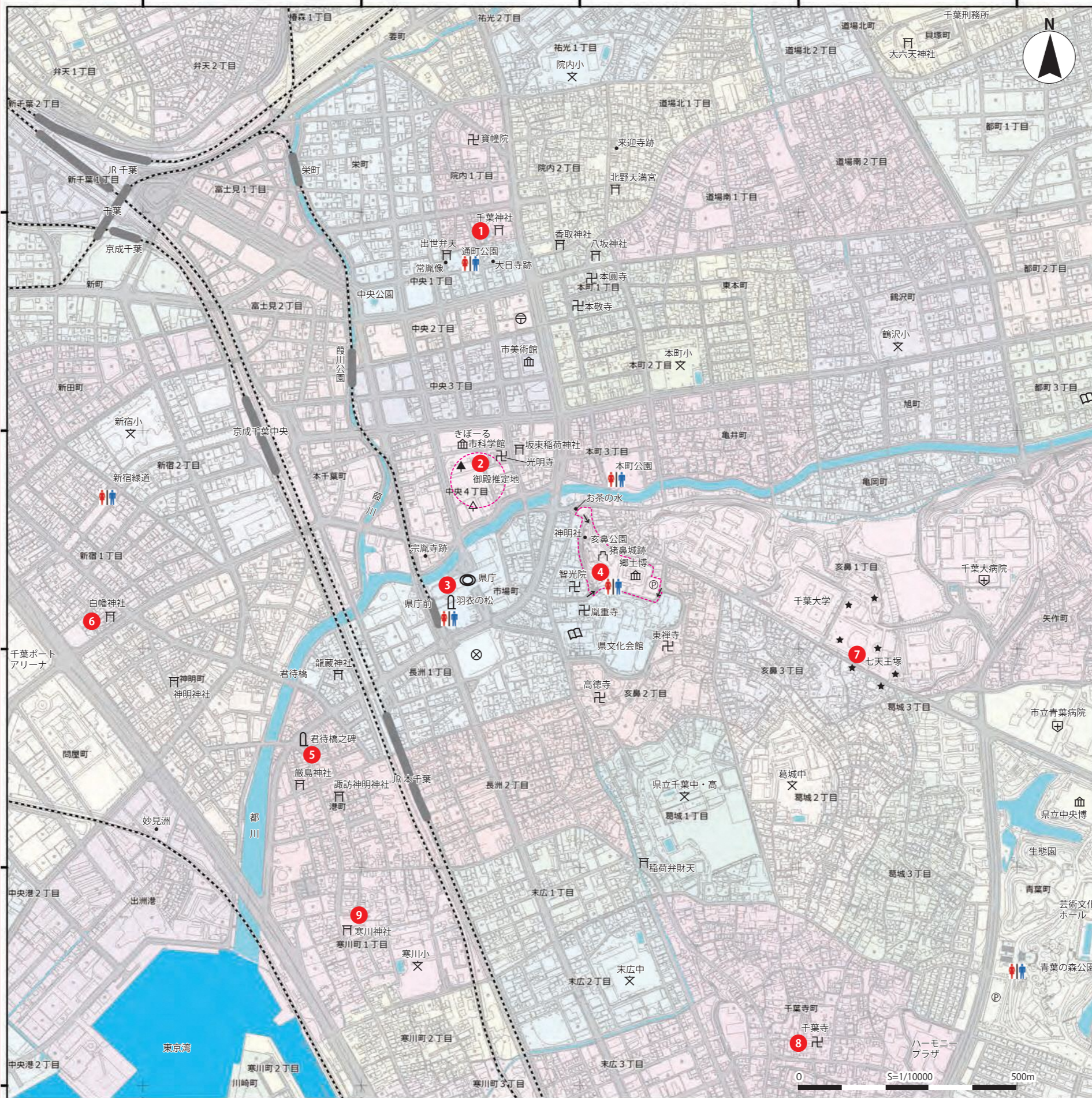
通町公園の西側には、頼朝が源氏再興を祈願したとされる出世弁天や常胤の胸像があります。



出世弁天

来迎寺跡

現在は轟町に移転していますが、もとは中央区道場北にあり、鎌倉時代の建治2年（1276）に千葉貞胤が建立、開山は一遍上人といわれています。



2 御殿推定地周辺

千葉御殿跡

千葉氏の館がどこにあったのか、未だに大きな謎として解決されていません。猪鼻城跡で行われた発掘調査では館と思われるものは見つかっていません。

かつて「御殿跡」と呼ばれた現在の裁判所あたりにあったのではないかとする説があります。

徳川家康も訪れたという館跡に思いを巡らし、周辺を散策してみたいはいかがでしょうか？

光明寺

新義真言宗豊山派に属する寺院で、江戸時代には妙見寺の末寺でした。平安時代に千葉常重が千葉神社の前身北斗山金剛授寺の境外仏堂の一つとして建てたといわれますが、その他にもいろいろな説があります。本尊は不動明王です。

3 羽衣の松周辺

羽衣の松

千葉県庁の議会棟前に羽衣の松があります。何度も植え替えられその場所も変わっていますが、この松には平常将が「千葉」を名乗る契機になったという羽衣伝説が残されています。



羽衣の松

宗胤寺跡

県庁から都川を渡る橋は羽衣伝説にちなんで、羽衣橋と呼ばれていますが、そのほとりにあり、千葉宗胤が父頼胤のために開基したといわれています。昭和20年（1945）7月の空襲で焼失し、戦後は弁天町に移転しています。境内に宗胤墓碑といわれる五輪塔があります。

まちのいたるところにある市章を探しながら歩いてみよう！



千葉市章は、千葉市の開祖、千葉氏の月星の紋章からとったものです。千葉氏の紋章は月星・九曜星の併用ですが、この月星に千葉の「千」を入れて、大正10年に市制施行を記念して本市の市章としました。

大正10年（1921）5月8日告示